

(公表用様式)

業務再点検結果報告

組織名	農林水産技術会議事務局技術政策課	連絡先	03(3502)7406
所管する業務の概要	・試験研究に係る基本的な目標等の企画、内閣府その他関係機関との連絡調整、政策評価、情報の高度利用の企画、状況や成果の調査及び広報や資料の刊行に関すること ・遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションの推進及び生物多様性影響評価に関すること		

・現在行っている取組や工夫	・点検によって得られた課題とその改善策
・農林水産省の職員としての意識を常に持ち、接遇マニュアルや接遇研修を踏まえた親切・丁寧な対応を心がけている。	・より一層の丁寧な接遇に努め、また相手が理解しやすい説明等を心がける。 ・「ビジョン・ステートメント」が日々の行動の判断基準となるように頻繁に目に触れるようにして意識啓発を図る。
・理解が得られるための説明内容の改善やわかりやすい資料の作成に努め、政策等の理解促進を図っている。どうしても必要な専門用語には解説をつける、わかりやすい具体的な成果を明示するなど工夫している。	・一方的な情報提供ではなく、相手側の主張や意見の収集にも努め、より一層の理解促進を図る。 ・政策等の説明対象層を広げ、幅広い世代に理解が得られるように努める。 ・平易な表現にこだわるあまりに専門的な正確性を失わないよう配慮していきたい。

2. 政策・事業等の企画立案・推進	
・現在行っている取組や工夫	・点検によって得られた課題とその改善策
・地方組織の担当者より現場における取組状況等の情報収集	・継続的に、地方組織の担当者と連携を深めるとともに、

に努め、国民の政策ニーズの把握に努めている。	地方組織担当者の政策の理解促進及び国民への適切な情報提供のための研修会を企画・開催する。
・研究開発の推進方向や実績について、外部有識者で構成される評価専門委員会による評価を実施し、その評価結果を、研究の企画・立案及び研究課題の見直し等に反映させている。	・必要に応じて随時見直しを行うなどの取組により、適切な評価が行われるよう努める。
・政策等を企画立案する際には、関係部局との情報交換・情報共有を行っている。	・関係部局との問題意識を共有し、互いの理解促進に努める。
・研究評価、研究成果等の情報についてプレスリリース、HP、各種資料などを通じて国民にわかりやすく提供するよう努めている。	・説明対象者に対応した資料等の作成・利用により一層の理解促進を図る。
・幹部が全国に出張し現場や地方組織のニーズを把握した。 ・消費者団体、民間企業等と会合を持ち、意見交換を行った。 ・現場等でお世話になった方はメールマガジンに登録し、その後の検討状況等を随時お知らせし、意見を募集している。	・今後も現場、民間企業、関係団体等と意見交換を行い、研究基本計画の見直しに反映させていきたい。

3. リスク管理	
・現在行っている取組や工夫	・点検によって得られた課題とその改善策
・業務担当者間での情報の共有及び関係部署との緊急連絡体制を整備している。	・業務担当者不在時の対応マニュアルを作成し、部署全体での対応が可能にする。
・業務を行うにあたって関係者間で情報を共有・確認を行っている。	・ヒヤリハット事例や接遇マニュアルの悪い対応をよく理解し、業務の活用する。ヒヤリ・ハットの事例以外にも、班内の業務でスムーズにいかない場面等あれば情報共有し、改善していきたい。
・プレスリリースや電話対応でミスが起きないようにチェックしている。	・プレスリリースの申請様式の見直しや取材マニュアルを作成し、関係部局に徹底させる。

<ul style="list-style-type: none"> ・課内会議等で、経験のある職員からリスク管理についての基本的な考え方や、経験に基づく対処方針等を課員に伝え、その上で課内でリスク管理についての対応について議論し、認識を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課内外の状況についてできる限り情報収集を行い、課の業務のリスク把握に努める。
--	---

<p>4. その他の重要な取組</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている取組や工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・点検によって得られた課題とその改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に、業務運営等についての疑問点や意見をお互いに指摘し合える環境を作り、特定の職員に負荷がかかりすぎないように業務分担を見直している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務運営に広い視野で取り組むため、日数を要する研修等は難しいが、可能な限り研修等に参加する。 ・より一層の業務の平準化に取り組む。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、経験を元に積極的な会話を各班において行う事で、相対の業務内容の把握を推進し風通しを向上。職員水準でも平時の会話を意識し職員同士の風通しを向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やる気を引き出す上司からの声かけ推進。